

一花×四葉

yami_yami

【注意事項】

このPDFファイルは「ハーメルン」で掲載中の作品を自動的にPDF化したものです。

小説の作者、「ハーメルン」の運営者に無断でPDFファイル及び作品を引用の範囲を超える形で転載・改変・再配布・販売することを禁じます。

【あらすじ】

一花と四葉の百合ものです。

目次

一花×四葉②	5
一花×四葉①	1

一花×四葉①

四葉「お風呂上がったよおー」

一花「じゃあ次わたし入るねー」

ガチャツ

一花「ふふんー♪」ヌギヌギ

一花「洗濯もの溜まってきているから後で回しておかないとっ…て、これ四葉の脱ぎたてパンツ…」ゴクリ

一花「んはあ…：すごいエッチな匂い…：」クンクン

一花「あの子の健康的な汗とおまたからの液体想像するだけで濡れちゃう…：」ジュン

四葉「一花ー？髪乾かしたいから入ってもいいー？」

一花「?!…：っいいよー！」

ガチャツ

四葉「ん？一花どうしたの？顔赤いよ？」

一花「うん、なんでもないよっ」

四葉「？」

私、中野一花はどうやらレズのようなのです。特に四葉に対してすごい興奮してしまいます。

昔はみんなおんなじ顔、おんなじヘアスタイルで微塵もそんな気持ちは起きなかつたけど、髪型も髪色も変わっていくうちにみんな別人のようになっていってから、みんなをエッチな目線で見てしまします。

特に四葉は子供っぽいけど、運動後の汗の匂いとかパンツの蒸れる匂いがどストライクに私の好みです。

チャポンツ

一花「はあー、私最低だよね…： よりよって姉妹の四葉にこんな興奮するなんて…：」

一花「表向きは風太郎くんが好きってことでカモフラージュしてるけど…： 別になんも思っていないだよね…：」

一花「はあ…： 四葉のおまんこ舐めて見たいなあ」

翌朝

一花「今日土曜日かあー」

五月「あれ、四葉はどこ行ったのですか？」

二乃「あの子なら走ってくるって」

五月「朝から元気ですね… 確か今日は家庭教師の日でしたよね」

二乃「ええ、早くふー君に会いたいわあ」

ガチャンっ

四葉「ただいまー」

二乃「おかえり… ってあんた汗ダクダクじゃない！早くお風呂入ってきなさい！」

四葉「うん… 今日には特に暑いねえー」ヌギヌギ

二乃「ここで脱ぐのやめなさいよ…」

一花「(四葉のおっぱいの谷間あんな汗で濡れてる…)」

五月「一花どうかしましたか？顔が赤いですよ？」

四葉「あ、一花昨日も顔赤かったんだよー？熱でもあるんじゃない？」

一花「だ、大丈夫だから… あはは」

この気持ちは多分四葉のことが好きとかとかじゃないのです。

四葉を使って自分の性欲を満たしたいという気持ち、四葉をめっちゃくちやにしたいという欲望なのです。

一花「(はあ、わたしどうしてこうなっちゃったんだろ…)」

15分後

四葉「ふわあー、さっぱりしたー」

二乃「早く朝ごはん食べちゃいなさい」

四葉「うわー、今日も美味しそうだねー！」

一花「あー、わたしもちよっと朝シャンしようかなー」

五月「珍しいですね」

一花「うん、なんか昨日寝てる時汗かいちやったみたいで」

当然私の目的は四葉の使用済みパンツです。

どうにかしてこれを自分の部屋に持って帰りたいものですが…
ガチャっ

一花「相変わらず今日もお子様パンツだね…」

一花「うわあ、お股の部分すっごい汗で濡れてる… はあ… すっごい匂いきついけど最高っ」

一花「ちよつと汚れてるけど、もしかして昨日このパンツ履きながらオナニーとかしたのかな…」

一花「四葉のあそこ…」

一花「はあ… すーっ… はあ… すっごい匂い…」

一花「あ、私がこれ履いていけばバレずに部屋まで持ってける…」
ガチャっ

一花「はあ、さっぱりしたー、そういえば今日ふーたろう君何時に来るんだっけ？」

四葉「お昼食べてからくるっていつつなかった？」

一花「そつかあ、じゃあ私はもう一眠りしよつかない」

四葉「私も走ったら眠くなっちゃった…」

一花「いま、私四葉の使用済みパンツ履いてる… そう思うだけですっごい濡れちゃってる…」

五月「もう、二度寝はダメですよ？」

四葉「私たちまだ高校生だから大丈夫だよ！」

一花「じゃあ私は部屋に戻るねー」

一歩ずつ部屋に近づくたびに四葉のパンツでオナニーできると胸がトクトクと高鳴ってきます。

ガチャっ

一花「うわあ… 四葉のパンツ私ので濡らしちゃった… でもさっきより匂いすっごいっ…」
クンクン

一花「四葉のパンツ私のまんこにこすりつけたら… んっ… きもちいっ」
クチュクチュ

一花「ついでに持ってきた四葉の昨日のパンツも匂い嗅ぎながら…」
クンクン

一花「おしっこの匂いとかしてすっごいいい… 幸せえ」

一花「あ、こっちのパンツは被っちゃお… あはは、側から見たらど変態だね…」

一花「でも指止まんないっ… 四葉のパンツが私ので汚れちゃって
る…」クチュクチュ

一花「四葉のおまんこの匂いっ… はあっ… イキそうっ…
あっ… イクっっ」ビクビク

一花「はあはあ… なんだかすごい罪悪感…」

一花「これあとで洗濯機入れとかなきゃ…」

一花×四葉②

四葉のパンツでオナニーしてからというものの、四葉の顔をまともに見ることができなくなりました。

しかし、四葉の秘部を見てみたい、触ってみたい、重ねてみたいという思いは強く加速してしまい、とうとう行動にうつしてしまいました。

2日後の夜

a. m 1時

ガチャっ

一花「みんな寝てるよね…。」ソーツ

一花「四葉も寝てるよね…。」

カチャリ

バタンっ

一花「起きないようにそーっと」

四葉「んんっ…。」

一花「?!」

四葉「上杉さんこれ以上勉強はできません…。」

一花「あはは、勉強のことどうなされてるね…。」

一花「あ、四葉ホットパンツ履いてる…。てことはパンツ履いてないよね」

一花「ちよつとずらしてみよ…。」 わあ、四葉パイパンにしてるんだ…。流石に天然物じゃないよね…。」

一花「匂い嗅いじやおっ…。すーっ…。はあ、ほのかなおしっこの匂い…。」

四葉「むにやむにや」

一花「…。舐めてもいいかな…。ちゆるっ…。」

四葉「んー…。」

一花「びっくりした…。すごいエツチな味…。」

一花「ぺろぺろっちゆるっ…。はあ、だんだん濡れてきたっ…。四葉の愛液美味しっ」

四葉「んっ…んん…んん??」

一花「すっごい匂いっ…はあっ…」

四葉「キヤツ!!」

一花「?!よ、四葉?!」

四葉「い、一花何やってるの…?!」

一花「シー!」

四葉「むごっむむ」

一花「四葉がエツちな体してるから襲いたくなっちゃったよお姉さんっ♡」

四葉「ぶはあっ…だ、だめだよこんなこと! 私たち女の子同士…」

一花「エツちなことだけだったら大丈夫っ…ちゆるるるっ」

四葉「んあっ…一花やめてっ」

一花「はあっ…四葉のおまんこ美味しい…」

四葉「こ、こんなの…間違ってるよ…あんっ…」

一花「でも体は正直だよ? こんなにヌルヌル液出しちゃって」

四葉「だめっ…一花そこ舐めないで…やんっ」

一花「ここ? クリすごいおっきい…」

四葉「やめてっ…だめだよお…んっ…やだっ…」

一花「ヒクヒクしてるよおー? 四葉もうイツちやいそう?」

四葉「一花やめてっ…ほんとに出ちゃうからっ…あっ!」プ
シャアア

一花「やっ、四葉のおしっこっ…」ゴクゴク

四葉「やめて…飲まないでえ…」

一花「すっごい美味しいっ…ぶはあっ…」

四葉「うう…もうやだ…」

一花「ほら一花お姉さんの顔にまたがつてごらんっ」

四葉「やだっ! こんな格好恥ずかしいよお」

一花「はあく、四葉のおまんこがこんな目の前に…じゆるるるるる!」

四葉「やんっ!…吸い取らないで!…もういやっ」ビクビク

一花「はあくんっ、何もしてないのにタラタラ垂れてきてるっ…
しよっぱくて美味しい♡」

四葉「一花やめよ…こんなダメだよ…」

一花「こんなに濡らしてるのに何言ってるの…ちゆるっ」

四葉「はんっ…やあ…」

一花「あれー？四葉腰動かしちゃって…もっとしてほしい？」

四葉「ちがっ…！」

一花「じゆるっ…ちゆぶっ…はあ…
どどん濃い味になつて
るっ♡」

四葉「やつ…あんっ…」

一花「ちゆびっ…じゆるるるっ」

四葉「ツッ！」ビクビク

一花「またイツちやった？」

四葉「はあはあ…」コクリ

一花「はい、今度は足広げて」

四葉「こ、こう…？」

一花「はいいい子…そんないい子には貝合わせプレゼントしちや
うよっ」クチュ

四葉「やつ…一花のと擦れあってる…」

一花「はあく、四葉のトロトロおまんこが私のおまんこに…これ
たままないっ♡」

四葉「一花あ…こんなダメだよお…」

一花「んあっ…見て四葉…こんなに四葉のヌルヌル液が私のに
ついてる…」クチャツクチャツ

四葉「だめっ…」

一花「ほらっ…クリ同士擦り付けるのどう？」

四葉「うう…やだっ…」

一花「ビクビクしちやって…激しくするねー」グチャグチャツグ
チャツ！

四葉「んあっ！」ビクビク

一花「四葉腰止まんない…これ気持ちいいねえ♡」

四葉「やめて一花っ…また出ちゃうっ…」

一花「私もそろそろやばいっ…イキそうっ♡」

四葉「やばっ…出るっ」ジヨジヨジヨ

一花「えっ?!四葉のおしっこが私のクリにあたって…イクっっ

♡」ビクビクビク

一花「はあはあ…」

四葉「はあはあ…」

一花「ああ…四葉、その…ごめん…」

四葉「うん、私も気持ちよくて…最後の方はノリノリになっ
ちやった…」

一花「また今度してくれる？」

四葉「えへへ、いいよっ」

一花「じゃあ今日は一緒に寝ようか…」

四葉「うんっ…」

翌日

二乃「なに二人で一緒に寝てたの？」

一花「昨日四葉が怖い夢見たとか言って一緒に寝よって聞かないか
ら…」

四葉「あはは…」

五月「まったく、四葉はまだ子供ですね」

二乃「あんた…この前私とホラー映画見た後夜一緒に寝てほし
いって半泣きだったじゃない」

五月「ああ！それは言わない約束で！」

四葉「えへへっ」ギョッ